



当院SSTにおける言語聴覚士の取り組み

SST（摂食嚥下支援チーム）は複数の職種でチームを作り、患者さんが口から十分な栄養を摂取できるようになることを目的としています。

人間にとって「食べる」ことは大変重要な事です。様々な病気によって飲み込みの力が弱くなってしまうとムセや誤嚥性肺炎の要因となります。

言語聴覚士は患者さんの飲み込みの状態を評価し、経口による栄養摂取の再開や継続が可能となるよう情報提供しています。また、**安全な姿勢や摂取方法の調整**、食事が低下している方には**補食を検討**することもあります。

必要に応じて嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を施行し、安全に食べられる食形態を検討しています。



当院では管理栄養士、看護師、リハビリスタッフが中心となり、週1回カンファレンスを実施



事例紹介：

左麻痺があり姿勢が崩れやすい患者さんです。PTと協力し、クッションを入れることで姿勢を保持出来るようにしました。正しい姿勢で食事を取る事で、ムセが減少し安全に食事出来るようになりました。

他職種との連携や情報共有を図るため、**言語聴覚士主催のSST勉強会**も開催しています。経口摂取の重要性を意識してもらえるよう、先月は「誤嚥性肺炎患者の早期経口摂取に向けて」というテーマで開催しました。看護師、リハビリ、管理栄養士等多くのスタッフが参加し、有意義な勉強会となりました。勉強会後には、スタッフからSTへの質問や患者さんの相談なども増え、職種を超えた連携を取る事が出来るようになってきました。

どうすれば安全に食事を続ける事ができるか、言語聴覚士が多職種間の橋渡しをしながら日々、試行錯誤しています。

■ 医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。
主治医にご相談ください。

▶ 施設基準

心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
運動器リハビリテーション料Ⅰ
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
がん患者リハビリテーション料
摂食機能療法



■ 通所リハビリテーション関越中央

1~2時間の短時間通所リハ、6~7時間の長時間
通所リハを行っております。
相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様
に合わせた最適なプランを提案させていただきます。

■ 訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、
心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用
頂けます。



空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9:00~10:15	○	△	○	○	○
短時間型通所リハ 2クール 10:30~11:45	○	△	○ 11月より開始	○	△
長時間型通所リハ 9:00~15:15	○	○	○	○	○
訪問リハビリ 13:00~17:00	△	○	○	○	△

○：受け入れ可能 △：要相談 ×：受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115（代） FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

ひとことコラム 第54回

「姿勢が悪い」は飲み込みにも影響している！？

ある研究では摂食時にむせがある者の6~7割は姿勢の不安定や体幹・頸部角度の不
適がみられたと報告しています。机やテーブルの高さは、肩を自然におろした状態
で肘が台の上につく程度に調整しましょう。机が高すぎると首が後ろに倒れ、誤嚥
のリスクが高くなります。車椅子などの背もたれが広い状態では、横に体が傾きや
すくなります。姿勢を安定させる目的でクッションなどを背中と体の間に入れると
よいでしょう。

春の兆しが見える中、寒さで縮こまっていたご自身の姿勢を見直してみてもいいか
でしょうか。



参考文献：MEDICAL REHABILITATION No.259 31-37 姿勢保持不良への次の一手！
嚥下筋の筋活動を低下させる姿勢の問題とその調整